

公益財団法人東海交通遺児を励ます会 会報

はばたけ

～希望と勇気と自立～

会の目的 交通遺児の自立を支援します。

会の事業 目的に沿って、次のような年間行事を計画しております。

- * 3月 中学を卒業する交通遺児を励ます集い
卒業生の門出を、保護者の方と共に祝います
中学卒業祝金15万円を卒業生に贈呈
- * 8月 サマーキャンプ
- * 12月 交通遺児を励ます大会 交通遺児及び保護者が支援者、寄付者と共に集います
来春小学校に入学する児童に入学祝金10万円を贈呈
- * 保護者懇親会 (子ども同伴可)
保護者の方が抱える問題を共に語り合います。
- * 「親子旅行」を年数回
- * 随時 支援者からの招待行事、催しに参加
- * 2月、6月、10月 会報「はばたけ」 年3回発行

皆さんのおかげで悲しみがやわらいだのは事実です。



第56回交通遺児を励ます大会 令和5年12月24日 サイプレスガーデンホテル

次に、参加させていただいたのは東京デイズニースーへの1泊2日旅行でした。初めてのデイズニースーで時間いっぱい楽しむことができました。色々なアトラクションに乗り非日常的な時間を過ごすことができました。父親がいなくなった悲しみが完全には癒えず、嘘になりますが、皆さんのおかげで悲しみがやわらいだのは事実です。ありがとうございます。

自分は来年中学3年生になります。受験などに向けて更なる努力が必要なので、まずは自分のペースでもいいので努力をしていきたいです。OB・OGのみなさん本当にありがとうございます。

初めに参加させていただいたイベントは、恵那のグランピングでした。この会に入ってからすぐにコロナが始まり、今年にようやくグランピングに参加することができ嬉しかったです。そこでは、一つのことに集中してやり抜くことができたり、あまり関わりのなかった他の地域の子たちと友達になることができたという様々な思い出を作ることができました。



この度は、クリスマス会に参加させていただきありがとうございます。僕は、この会を通して悲しみを乗り越えられた気がします。

東海交通遺児を励ます会の皆さんへ
中2 岡田悠太郎

会長挨拶

会長 吉野 雅山

我慢する心、もう一つは感謝する心」と言っておられます。

皆さんは、コロナ禍で我慢に我慢を重ねてこられました。これからの人生や生活では、きっと「思いどおりにならない」「ここは我慢しなければ駄目だ」という時が来ると思います。そんな時には、ぜひコロナ禍の時を思い出し「我慢すること」を実践してください。

もう一つの感謝の心ですが、皆さんから向かって右側にお見えになります方々が当会の事業に寄り添い、貴重な浄財をご寄付いただいた方々です。そして、後ほど私から感謝状を贈呈させていただきますが、皆さんの温かい善意のご寄付により「今日の会もあるんだな」と実感いただき、私と同じように心の中で感謝の気持ちをお伝えし、今日を過ごしていただければと思っております。

また、当会もコロナ禍の間は、本当に事業が思いどおりに出来ませんでした。きっと、皆さんも「あんなことがしたい、こんなことがしたい」と、当会に対してもいろいろな想いがあったと思います。そしてようやくコロナ禍が終わりました。皆さんには懐かしいと思いますが、二宮さんに当会事務局を長く勤めていただいております。そして、今年から戸井さんに代わり、戸井さんの下へOB.OG達が土曜日に事務局へ集まり、今の子ども達に「何をすべきか」と見つめ直していただいております。

夏はカヌー教室からグランピングに変わりました。親子旅行で企画したディズニースーも1泊2日になりました。そして、たぶん今日の大会も今までにない大会が変わっていると思います。これからは、その時代時代に合った当会の運営を今、OB.OGが必死になって考えてくれています。どうぞご寄付いただきました皆さま方、今後ともよろしく願い申し上げます。

ご承知の通り、交通遺児の人数はおかげさまで減少しておりますが、その子ども達に少しでも寄り添い、会の目的でもあります自立へと繋げる支援活動を進めて参る所存です。今後ともお力添えいただきますことを高い席からお願い申し上げ、私のあいさつとさせていただきます。

みなさん、おはようございます。

今日は12月24日です。新聞やテレビ、朝から「クリスマス、クリスマス」と賑わっています。皆さんには、第1部の後の第2部、OB.OG皆さんがいろいろな趣向を凝らしたクリスマス会を用意してくれているそうです。どうぞ、今日一日楽しんで帰っていただければと思います。

また、愛知県教育委員会の小山田先生、名古屋市教育委員会の一ノ瀬先生、本日はご出席賜り子ども達へ励ましを頂けますことを厚く御礼申し上げます。

そして、本年も貴重な浄財を子ども達のためにご寄付いただきました皆さま、後ほど子ども達と共に感謝の気持ちをお伝えし、感謝状をお渡しさせていただきます。本日はご出席賜り厚く御礼申し上げます。

さて、最近ではコロナという言葉が聞かなくなってきましたね。5月には2類から5類へ、また、マスクの着用も任意へと変わりました。この会場内でも半数ぐらいの方がマスクをはめておられる状況となりました。しかしながら、子ども達はこの3年間「あれも駄目、これも駄目」と、たくさんの制約の中で限られた学校生活や家庭生活を過ごされたことと、まさに我慢の3年間であったと思います。そして、やっとコロナ禍前に戻りました。先ほど申し上げましたように、今日のイブは大いに楽しんでいただければと思っております。

今日は皆さんに直木賞作家で100歳になられた佐藤愛子さんのお話をご紹介します。子ども達に「サトウハチロー」と聞いても分からないと思いますが、その方の妹さんです。100歳の彼女が「最近の日本人には足りないものが2つある。一つは

ありがとう、お母さん 中2 佐々木 果梨

私は、母のことが大好きです。母は、いつも笑顔で一生懸命で何があってもいつもでも家族を支えてくれています。私が二歳の頃、父を亡くしました。とても小さな頃なので父との思い出はあまり覚えていません。そんな小さな私でも優しい父が亡くなってしまった時の悲しみは今でも覚えています。保育園のころから父がいなかった私は父と遊んでいる友達を見ると、とてもつらいことがありました。小学校の行事では、まわりの友達は父と母の二人で来ているのに私だけが母一人で何度もうらやましいなと思いました。父がいなかったため遠くへの旅行も少なかったです。「なぜ私だけがこんな悲しい思いをしなければならない」とよく思うことがあります。

そんな私をずっと支えてくれたのは母です。いつも相談に乗ってくれて父の話になると「パパの分も頑張るね」と言います。母は、私たちをとても大事にしてくれて家事、仕事、習い事の送り迎え全てを一人ですべてしています。小さい頃、自分のこともあまりできず母に頼りっぱなしで文句も言っていました。自分の思い通りにならないと泣いて怒っていました。しかし、けんかすることがあっても母は寄り添ってくれてくれました。

中学生になった今、自分でできるようになったことが増えましたがとても忙しくなりました。勉強が難しくなり部活も増えたためとても大変です。けれど、学校生活がとても充実しています。それは母のおかげです。私が困っていたら何でもサポートしてくれました。学校でさらに忙しくなると体調の心配をしてくれます。しかし私は、中学生になっても頼ってばかりいて言い訳をつけてお手伝いをしなかったり、母の願いに文句を言っていました。母が協力してくれていることに対して情けないと思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

来年、私は受験生です。母に迷惑をかけることが増えるかもしれないけど、自分でできることを増やし母のため、家族のために協力し今まで以上の恩返しができるいいなと思います。ありがとう、お母さん。

そして、この会に参加できる年も残り少なくなってきました。今までたくさんのいい経験ができて本当に楽しかったです。私もいつかすてきなスタッフさんのように交通遺児の子たちを楽しませたいと思いました。

この春から社会人となり、私にとって二つのことが大きく変化しました。

一つは、この「励ます会」です。今年の三月、戸井さんに声を掛けていただき様々な体験にボランティアスタッフとして参加させていただきました。今までは、夏のカヌーや大会にボランティアとして参加するだけでした。しかし、今年からは違います。ゼロの状態から「どこで、どのような経験をするのか」を私たちOB・OGが考え立案、体験、修正して実行しました。

それが、今回の「励ます大会」や夏に行われた「グランピング」です。子ども達が安全に楽しく遊ぶにはどうしたらいいのか考え、現地のスタッフにアドバイスを受けながら、私たちボランティアスタッフが丸となって企画しました。私は、悠太郎さんと千里くんの担当となり貴重な体験をさせていただきました。悠太郎くんは、火起こしで火溝式を体験していました。火溝式は非常に難しく多くの子が断念していましたが、悠太郎くんは諦めずに頑張り、一時間以上かけながらも見事に火起こしを成功させていました。千里くんは、周りの中学生男子と年齢が離れていましたが、時間が経つにつれ打ち解けていき山登りでは他の男子と一緒に先頭を仲良く歩いていました。たくさん遊んだこともあり、帰りのバスではお母さんにもたれてぐっすり寝ていました。グランピングは初めての挑戦であり、私たちは成功させたい思いで取り組んできました。子ども達から見た笑顔は、私にとって掛け替えのない思い出であり関わることができてとても嬉しかったです。大会も含め、これからの子ども達の笑顔が増えるよう仲間と共に協力し関わっていきたいです。

もう一つの変化は「仕事」です。十月に準中型免許を取得し、来月から配送員として働きます。通勤以外にも車を使用するため、より事故の危険が高まります。遺児であるからこそ交通事故故で家族を亡くす悲しみは深くわかります。私加害者として遺児を増やさないため「ゆとり」と「マナー」の二刀流で運転します。



皆様からのあたたかい善意のご寄付、心より感謝申し上げます。



ご支援いただきありがとうございます。



愛知県中古自動車販売商工組合様より、子ども達にXマスプレゼントをお渡しくださり、ありがとうございます。今年で15回目です。



作文発表、ありがとうございました！



会長で賞



理事で賞



GETできました。



評議委員で賞



監事で賞



青木監事に乾杯のご唱和をいただきました。大地運送株式会社様より、飲料の(今年で28回目です)ご寄付を頂戴しました。ありがとうございます。



子ども達がお礼の手紙を書いてくれました



ボランティアで賞



立食パーティーでお腹いっぱい楽しみました。



スタンプGET! あと少しだ



ケーキありがとう



美味しそうだね、どれ食べる?



サンタさんにプレゼントをもらえたね!



愛知県教育委員会
小山田 裕美様



私は、愛知県教育委員会の小山田といいます。どうぞよろしくお願います。

今年のNHK大河ドラマで『どうする家康』が放送されましたが、今日は徳川家康についてお話しようと思います。

徳川家康は愛知県岡崎市で生まれ、小さい頃は竹千代と呼ばれていました。名字も最初は徳川ではなく松平でした。当時、愛知県の隣、今の静岡県には今川義元が治めるとも強い国がありました。お家存続のため、竹千代は家族と離れて松平家からこの今川義元のいる所で人質として育てられることになりました。今川義元は家臣から「竹千代をどのように育てればよいでしょうか」と問われた時、一言「むごく育てよ」と言ったそうです。これを聞いた家臣は「分かりました。厳しく育てます」と答えたのですが、義元は「そうではない。言うことは何でも聞いてやれ。ぜいたくな食事を与え、欲しがる物は何でも与えて、昼寝がしたいと言えばさせなさい。学問が嫌だと言うなら好き勝手にさせなさい」と言ったそうです。家臣が「そんなぜいたくをさせてよろしいのですか」と問い返すと、義

しいほど、本当の自分がわかる。その時々で自分が何を考え、どんな行動をするのかが試される。成長するチャンスをもたらしていると感謝するべきだ、スタッフや選手が喜んでくれる方法をつかむことができるのだ、と受け止めていったのです。

栗山英樹監督は、過程より結果で評価されるシビアな競争社会の中で監督として、毎日を全力で駆け抜けました。そして監督生活がいつ終わっても後悔しないようにと、その日起こった出来事をどのように受け止めるかをノートに記し、自分ができていることを増やす、自分磨きを心掛けたそうです。

勉強やスポーツでも、人間関係の構築でも、何かを生み出す過程では苦しみや悩みがつきまといます。その種類には小さなもの、大きなものがありますが、誰しも何かしらの苦しみや悩みを抱えているものです。みなさんも、自分の夢や目標に向かって自分なりの、自分磨きを続けながら、歩んでください。みなさんの成長を心から応援しています。

三重県教育委員会事務局 生徒指導課長

萬井 洋様

第56回「交通遺児を励ます大会」の開催にあたり、皆さんにメッセージをお送りします。

愛知県出身の棋士である藤井聡太さんが大切にしている言葉に「追求してみるという気持ちを大切に」があります。この言葉には、何事にも追求する

元は「小さい時から欲しい物を何でも手にし、楽をしていれば、大抵の人は駄目になり、役立たずの人間に育つものよ。そうすれば松平の領地はわしのものじゃ」と笑ったそうです。

日本は今、とても豊かな国になりました。何万円もするスマートフォンやゲーム機で遊び、おいしい物をいっぱい食べ、車や電車で楽に移動し、欲しい物もすぐに手に入ります。YouTubeで面白い動画を見たり音楽を聞いたりして1日中家で楽しむこともできます。今の日本の環境は、今川義元の言うむごい状態であるともいえます。

嫌なことをぐっとこらえたり、厳しい練習を続けたりするのはとてもつらいことです。しかし、そのことで、ちょっとしたことでくじけない強い心や我慢する心が育つでしょう。それは目に見えるものではありませんが、生きていく中でとても大切なものです。徳川家康は、自分のおばあさんに厳しく育てられ、幾度も戦いを経験して強い武将になり、ついには天下を取りました。家康が嫌なことはやらず好きなことだけをしていたら、このようなことが成し遂げられたでしょうか。

皆さんには強い心を持って、くじけず、自分の決めたことをやり抜いてほしいと思います。自分の好きなこと、やりたいことを見つけ、夢を持って、その夢に向かって一歩ずつ歩んでいくください。

以上、私からの励ましの言葉とさせていただきます。

気持ちを持つことが、大きな目標を達成するためには大切であるという思いが込められています。

今年、藤井さんが様々なタイトルに挑戦し、史上初となる八冠を達成されたことは記憶に新しいと思います。

藤井さんは5歳の時に将棋に触れ、月日の流れとともにどんどん強くなりました。しかし、小学校2年生の時に、優勝が確実視されていた小学生名人戦の愛知県大会で優勝を逃すという挫折を味わいました。その後も、いくども壁に遭遇しますが、努力を積み重ねてきた結果、前人未到の八冠を達成することができました。八冠を賭けたタイトル戦では、藤井さんが圧倒的に不利な状況の中、決して諦めることなく最善手を打ち続け、劇的な勝利をつかむことができました。

対局後、藤井さんはこのような言葉を残しています。

「雲外蒼天」

この言葉は、「雲の外は青空」が転じて、「困難を乗り越えた先には、明るい未来がある」「どんな試練でも乗り越えれば快い青空が広がる」という意味です。藤井さんが八冠を達成したときに「雲外蒼天」という言葉を用いたことから、これまでの道のりがいかに困難であったかが伺い知れます。藤井さんが追求する気持ちをもちつづけ、困難を乗り越えたからこそ、今まで見えていなかった新しい景色が見えたのではないのでしょうか。

皆さんも目標を見つけ、追求する気持ちを大切に、これからの人生を歩んでいくってください。皆さんの成長とご活躍を心から応援しています。

名古屋市教育局 指導部

一ノ瀬 喜崇様



皆さん、こんにちは。名古屋市教育局委員会の一ノ瀬と申します。今年も残りわずかとなりました。皆さんにとってはどんな1年だったでしょうか。

さて、皆さんはウォルト・ディズニーさんという人を知っていますか。ミッキーマウスを生み出した人です。この方は12月8日が誕生日だったというところで、先日、たまたまラジオで彼についてのお話が流れていたのを聞きました。その中で私の心の中に強く残ったお話を今日は皆さんに紹介したいと思います。

ミッキーマウスの生みの親であるウォルト・ディズニーさんは若い頃、得意の絵を生かして人が幸せになる仕事をしたいと、漫画を描く仕事やデザインの仕事をしたり会社をつくったりしましたが、4回とも失敗してしまっただけです。その後、魔法の王国をつくりたいとお兄さんと一緒に会社を始めました。そのためにはお金が必要ですから、ミッキーマウスの絵を描いて銀行にお金を借りに行きましたが、銀行の担当者の方からは「このネズミは何ですか」とあっさり断られたそうです。しかしディズニーさんは諦めないで、断られても断られても次の銀行にと頼みに行きました。すると、なんと303回目にオッケーをもらうこと



愛知県知事 大村 秀章様

かけがえのないご家族を突然の事故で亡くされた悲しみや寂しさは、今なお癒えることなくこれから先のことを思うと、不安な気持ちになる方もいらっしゃるかもしれません。

それでもあなたは決して一人きりではありません。あなたの周りには、あなたを支えたいとがんばる大人がいます。あなたとともに学び、悩みを聞いてくれるお友達もいます。

愛知県も、皆さんが元気にいきいきと暮らしているよう、応援していきます。また、交通事故の防止にもしっかりと取り組んでいきます。

皆さんがこれからの日々を力強く歩んでいくことは、ご家族の願いであり、皆の希望でもあります。

どんな困難なことがあっても、必ずどこかに希望の光はあります。

今後の皆さんの未来が輝けるものでありますことを、心よりお祈りいたします。

岐阜県知事 古田 肇様

皆さんが、ご家族やご友人を大切にされるとともに、輝かしい未来に向かって、力強くご自分の道を歩まれ、ますますご活躍されることを期待しております。

岐阜県におきまして、交通事故の

ができたのです。そして1955年に世界で最初のディズニーランドができました。オープンすると大人気だったそうです。もしディズニーさんが302回目で諦めていたら、この世界にディズニーランドはなかったかもしれません。

ウォルト・ディズニーさんは、失敗が何だつていい、失敗から学んでまた挑戦すればいいという言葉を残しています。彼にとって、なりたいたい自分、自分の夢を実現した力になったのは、まさに諦めない心だったといえます。私は皆さんにも失敗を恐れず、勇気を持って果敢にチャレンジし、諦めない心で頑張ってもらいたいと思います。

今年ももう終わりを迎えますが、これから皆さんにとってより素敵な日々となりますようお祈りして、私からのお話とさせていただきます。ありがとうございます。

岐阜県教育委員会 学校安全課長 酒井 猛様

WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）で日本を3大会ぶりの優勝に導いた栗山英樹監督の著書に、小学生の頃から書き続けている「野球ノート」をまとめた「栗山ノート」があります。その「栗山ノート」には次のような文章があります。

試合に勝てないというまいかないことは、これ以上ない学びの機会です。自分の至らなさや勉強不足を、客観的に突き付けられる。苦しければ苦

ない、安全で安心な地域づくりを目指してまいります。

三重県知事 一見勝之様

不幸にしてある日突然、交通事故に巻き込まれ、大切な人を失う、その悲しみや苦しみは計り知れません。

大切なご家族を失われた皆さまが、そのつらい経験から立ち直り、再び前を向き歩まれる未来が豊かなものであることを、心よりお祈り申し上げます。

また、長年にわたる励ましや厚いご支援をいただいております関係者の皆さまへ、深く敬意を表します。

三重県としまして、交通事故のない安全で安心なまちづくりに向け、引き続き県民一丸となり、交通安全対策を推進してまいります。

名古屋市長 河村 たかし様

皆さんは大切なご家族を事故で亡くされ、つらく寂しい思いをされていることと思います。しかし、一人で悩んだり、抱え込んだりしないでください。周りの大人やお友達、きつとあなたの力になってくれます。

皆さんは、一人ひとりが生まれながらにしてかけがえのない存在です。名古屋市では、大人や社会が、子どもの意見や気持ちを最大限尊重し、温かく支え、その可能性を応援することができるよう今後も取り組んでいきます。

皆さんも、大切な夢を諦めずに、将来に向かって歩んでいくってください。

ご支援、ご寄付に心より感謝申し上げます

当会は、国、地方自治体の補助を受けず、皆さまからの温かいご支援、ご寄付で、愛知県、岐阜県、三重県の交通遺児と保護者への支援活動を行っております。

「社会福祉法人中日新聞社会事業団」様を通じてのご寄付をいただく場合「東海交通遺児を励ます会」とご指定ください。また、当会は平成24年7月に公益財団法人に認定され、ご寄付いただいた寄付金は、税制優遇の措置が受けられます。

令和5年9月～12月にご寄付を賜りました。

皆さま方の変わらぬご支援、ご寄付に心より感謝申し上げます。

(敬称略・順不同)

【団体】

一般社団法人愛知県トラック協会
愛東運輸株式会社
株式会社カワグチ
有限会社ビィトップス
株式会社日刊自動車新聞社 中部支社
一般社団法人愛知県自動車会議所
三重県トラック事業協同組合 青年部会
一般社団法人愛知県指定自動車教習所協会
一般財団法人名古屋高速道路協会
一般社団法人愛知県道路標識・標示業協会
愛知県個人タクシー協会
一般社団法人愛知県トラック協会
名古屋第一支部青年部会
臨済宗 薪流会
一般社団法人愛知県トラック協会
知多支部
巴運輸株式会社

【個人】

愛知車輛興業株式会社
名古屋大須ロータリークラブ
吉正運輸倉庫株式会社
野々山恵税理士事務所
サンシン運輸株式会社
三菱自動車セーフティドライバーズクラブ
田原交通安全協会
日本道路株式会社 中部支店 道親会
大池運送株式会社
愛知ヨーロ株式会社
ユニネットランス労働組合
株式会社ユニネットランス
社会福祉法人中日新聞社会事業団
社会福祉法人中部善意銀行
愛知県中古自動車販売商工組合
名古屋市個人タクシー協同組合
中部輸送関連交流会
中部交通共済協同組合
名備運輸株式会社
カリッパ協力会
株式会社デンソーシアードサービス
名古屋テレビ放送株式会社
藤原 光広・藤原 美舟
野口 土葉
西 喜美代
浅岡 次郎
坪井 峰緒
吉野 雅山
水谷 昂示
松尾 隆徳
石川 靖斉
弁護士 丹羽 洋典
弁護士 岡田 貴文
匿名



交通遺児のためにと浄財を寄託

多くのご寄付を賜りました。心から感謝いたします。
名古屋テレビ放送株式会社様より12月22日名古屋市子ども青少年局長様にご臨席を賜り、吉野雅山会長へ多額のご寄付を賜りました。昭和52年以来46回目です。
「交通遺児チャリティ」にご寄付を賜りました企業・団体様は次の方々です。
(敬称略・順不同)

株式会社ヤマナカ リンタツ株式会社 名古屋北ロータリークラブ

DisneySEA
行ってきました!!

お知らせ・行事案内

第52回中学を卒業する交通遺児を励ます集い(予定)

・令和6年3月17日(日) サイプレスガーデンホテル

対象の中学3年生の皆さまには2月にご案内いたします。

現時点では開催を予定しておりますが、状況に応じて延期、中止とさせていただきます。皆さまにはご理解とご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。

「祝金」申請時に「交通事故証明書※」が必要となります。※コピー可

発行・編集 公益財団法人東海交通遺児を励ます会
名古屋市中熱田区金山町1-14-21
電話 052-682-9819 FAX 052-682-9865
ホームページアドレス <https://www.tokai-kotsuiji.com/>
発行責任者 会長 吉野 雅山 印刷 ニホン美術印刷株式会社

お願い

住所または氏名など各種のご変更は、事務局までご連絡のほどお願い申し上げます。